

くす通信

第240号
2021年2月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

脳神経内科より

パーキンソン病について

薬剤師より

パーキンソン病の治療薬について

2月



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

薬剤師から説明!

薬剤部 薬剤師

あだにや げん
安谷屋 源

パーキンソン病の治療薬について



パーキンソン病の治療は薬物療法による対症療法が基本となります。年齢、精神症状の有無、運動合併症リスクの有無によって、レボドパ製剤のドーパミン補充療法もしくはそれ以外の抗パーキンソン治療薬、またはその両方を使用します。レボドパ製剤以外の抗パーキンソン治療薬には、ドーパミンが体内で分解されるのを抑えることで、ドーパミンの効果を引き延ばすはたらきのあるセレギニン(エフピー®)、すくみ足や起立性低血圧の治療薬のドロキシドパ(ドプス®)、足の裏がムズムズするレストレッグス症候群治療薬のガバペンチンエナカルビル(レグナイト®)やロチゴチン(ニュープロパッチ®)などがあります。内服薬によって効果が不十分な際は手術療法を考慮していきます。運動療法は継続することにより、機能障害を改善する効果が得られるため、薬物療法・手術療法と並行して行うことが重要です。

また、パーキンソン病治療薬は長期服用になるため、いくつかの有害事象が現れる可能性があります。パーキンソン体操・「治療薬の主な有害事象」の順に記載します。

やってみよう! パーキンソン体操(運動療法)

パーキンソン病の患者さまは、体をスムーズに動かせなくなってしまうので、つい体を動かすことを諦めてしまいがちです。パーキンソン病の患者さまは、手足や全身がこわばって固くなる、足の運びが小さくなる、バランスが悪く転びやすいといった症状でお困りのことが多いためご自宅でパーキンソン体操を行うのも大変有効です。転倒には注意をしながら行ってください。ここでは、パーキンソン体操の一部をご紹介します!

お辞儀をするようにして立ち上がる運動

「バタカラ体操」

パ 口唇を閉じる
カ 口唇の奥に舌の付け根付近をつける

タ 口蓋に舌先をつける
チ 巻き舌にして口蓋に押し当てる

立ち上がる

上下に動かす運動

手を上に組んで上下に動かす運動

パーキンソン体操を行う場合

- 薬が効いているときに行う
- 無理をせず、疲れない程度に行う
- 慣れてきたら運動量を少しずつ増やしてみましょう

体を左右にひねる運動

背筋を伸ばす運動

「1、2」と号令をかけながら足踏みをする運動

うつぶせになり、床に両手をつきながらゆっくり上体を起こす

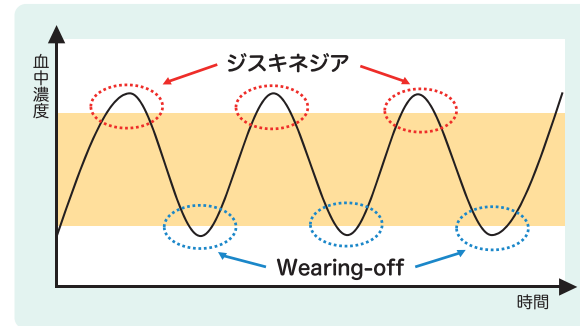
最終的に10分~20分程度の運動を1日2~3回行おう!!

1 Wearing-off (ウェアリング オフ)

レボドパ製剤の服用が長期化してくるとドーパミンの作用時間が1~2時間で切れてしまい、次の服用前にパーキンソン病の症状が強くなる現象です。そのため内服回数・量・タイミングを調整していく必要があります。服用回数を減らすためにエンタカポン(コムタン®)やセレギニンを併用します。他にはイストラデフィリン(ノウリアスト®)を併用します。

2 不随意運動(ジスキネジア)

自分の意思とは無関係に体が勝手に動いてしまい、手足が勝手にくねくね動く、口をもぐもぐさせる、顔をしかめるなどの運動合併症です。レボドパ製剤の1回量が多い場合に起こりやすいため、レボドパ製剤の1日量は変えず、1回量を減らし服薬回数を増やすことで対応します(下図参照)。



3 悪性症候群

レボドパ製剤の急な中断により、発熱、発汗、尿閉、振戦、筋固縮、意識低下などが起こることがあります。悪性症候群は早急な入院治療が必要となるため、自己判断で薬を中止したり、量を変更したりしないようにしてください。このような症状が見られた際は早めに病院を受診するようにしてください。

お薬について何かご不明点がございましたら、薬剤部までご相談ください。

パーキンソン病 について

脳神経内科副部長
こさか たかゆき
小阪 崇幸



パーキンソン病ってどんな病気？



パーキンソン病は、動作が遅くなったり、手がふるえたり、小刻みな歩行になったり、転びやすくなったりする病気です。ジェームズ・パーキンソンさんというイギリスのお医者さんが症状をくわしく報告したことにちなんでパーキンソン病という名前になったそうです。

パーキンソン病を疑ったら 何科を受診すればよいの？



脳神経内科にご相談ください。

パーキンソン病の診断のために どのようなことをするの？



パーキンソン病が疑われるような症状がいつからどのように出現したかなどについて詳しくお伺いします。その後パーキンソン病に特有の症状の有無や程度について診察します。また、必要に応じて補助的な検査が追加されます。補助的な検査には、血液検査、頭部MRI（エムアールアイ）、MIBG（エムアイビージー）心筋シンチ、DAT scan（ダツスキャン）などの画像検査が含まれます。

パーキンソン病の治療には どのようなものがあるの？



パーキンソン病は、ドーパミンというホルモンを作る神経細胞が減少することが原因で起こります。ですから、治療としては足りなくなったドーパミンを補充することが治療の基本となります（ドーパミン補充療法）。ドーパミンを直接補充する以外にもパーキンソン病にはたくさんの種類の飲み薬がありますので、治療薬については主治医の先生と相談しながら調整が必要になります。薬剤のみにて調整が難しくなった場合には症状の緩和を目的に手術が検討されることもあります。

パーキンソン病で注意することは？



適度な運動、食事、睡眠はパーキンソン病においても大事です。その他、薬を飲むのを急にやめたりすると体がびっくりして高熱をきたしてしまうことがありますので注意しましょう。

パーキンソン病の予防について

運動をする
(または体操をする)



睡眠をとる



コーヒー
を飲む



緑茶を
飲む



好きなことや楽しいことをして
ストレス解消をする



バランスがよい
食事を摂る



よく笑う



など...

脳神経内科の紹介

脳神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉が障害される病気を治療する診療科です。具体的な病気としては、脳梗塞、パーキンソン病、てんかん、片頭痛、多発性硬化症、髄膜炎、脳炎などがあります。いずれの病気においても診断方法、治療手段ともに日進月歩で進歩しています。運動障害（筋力低下、不随意運動、けいれんなど）、感覚障害（しびれなど）、歩行障害、頭痛といった症状でお困りの際は脳神経内科にご相談ください。こころの病気を治療する精神科や心療内科とは異なりますのでご注意ください。



国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
 - 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～翌年1月3日）
 - 受付時間 8：15～11：00
- 〒860-0008 熊本市中央区二の丸 1-5
TEL 096 (353) 6501 (代表)
FAX 096 (325) 2519
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。